

ホーム 社会 スポーツ ビジネス 暮らし 政治 国際 文化・芸能 サイエンス ENGLISH マイタウン
 天気 交通情報 ア斯巴クラブ

現在位置 : asahi.com > 愛車 > イタリア発アモーレ! モトーレ! > 記事



シャンゼリゼ、42番地の奇跡

2007年10月05日

■ 「シトロエンの時代」に生まれたショールーム



シトロエンのシャンゼリゼ42番地ショールーム。1930年代。(シトロエン提供)



「C42」。シトロエンのマークを全面で表現したファサード

20年前、ボクが人生最初の海外旅行先を選んだのは、ずばり「シトロエン」だった。急にそんなことを言われても、読者のみなさんは困るだろうから説明しよう。当時、大学生だったボクは、自動車関連書籍を読んで、パリのシャンゼリゼ通りにシトロエンのショールームがあることを知った。それがひと目見たくて、初めての海外旅行にパリを選んだのである。

シトロエンの創業者アンドレ・シトロエン(1878 - 1935)は、歯車工場と第一次大戦の砲弾特需で得た利益をもとに1919年、自動車製造に進出した。彼は砲弾工場時代に実践してみたフォード式大量生産を、欧州で初めて自動車に応用した。

シトロエンの“革命”はそれだけに留まらず、20世紀の広告史にも及んだ。自動車進出3年後の1922年、アクロバット機でパリ上空にCITROËNの文字を描いた。1925年には、エッフェル塔の側面に電飾でCITROËNの文字を浮かび上がらせ、パリジャンを驚かせた。

自動車進出からわずか数年で、こんな派手なプロモーションを展開したのである。世界一その名を知られた街路・シャンゼリゼのショールームは、シトロエンが次々と人々を驚愕させ続けていた真っ只中、1927年にできた。



建築家のマニユエル・ゴートラン氏



樹木をイメージしたという垂直型のターンテーブル



お披露目の夜、公認クラブのメンバーたちが愛車で参上

そうしたストーリーが、ボクの文科系クルマオタクのツボを見事に突いたのである。

■パリがあなたを待っています…のはずが

ボクの話に戻ろう。パリ行きのお金は、当時親が営んでいた蕎麦屋で、雑巾掃除と釣り銭の調達を手伝うことで貯めた。「パリがあなたを待っています」という、クイズ番組における見玉清氏の声が頭の中に毎日こだましていた。

そして1987年、ようやくパリに降り立ち、シャンゼリゼを目指すと、夢にまで見たシトロエンのショールームが本当にあった。

内部は数年前に改装されて、チェーン系のステーキ・レストランが併設されていた。今考えれば“コラボ（レーション）もの”の先駆けであり、さすが宣伝・集客手法に長けたシトロエンのなせる業である。

だが、肝心の車両は、入口部分にたった4台置かれているだけだった。当時発売されたばかりの小型車『AX』だったが、クルマ好きとして、やはり4台は少々悲しい。仕方がないので、せめてもの記念にとレストランで独り寂しく食事をし、ロゴの入った紙ナプキンと楊枝をもらって帰ってきたのを覚えている。

■折り紙ビル

そのシトロエンのシャンゼリゼ・ショールームが、装い新たに再オープンするというのでパリに赴いた。先日9月27日のことである。新名称は『C42』という。CitroënのCと、地番である42番地を組み合わせたものである。

実際は、リニューアルといった安易なものでなく、2004年から3年間を費やした完全な改築だった。シャンゼリゼ通り全体においては、25年ぶりの新築建造物だ。